

## 〈史料紹介〉

## 「小橋勝之助日誌」(一)\*

— 1887年12月1日～1888年6月17日 —

室	田	保	夫
鎌	谷	か	お
片	岡	優	子
			*1
			*2
			*3

## 解説—小橋勝之助の日誌をめぐって

## はじめに

ここに紹介する「小橋勝之助日誌」は大阪市淀川区にある社会福祉法人博愛社所蔵になるものである。社会福祉法人博愛社は現在、児童養護施設や特別養護老人ホーム等を経営している。1890(明治23)年1月、兵庫県赤穂の地に創設されてから、現在の地に移り、120年近く経っており、児童養護施設としても日本有数の歴史をもっている。そしてここには創立以来からの多くの史料が保存されており、児童福祉のみならず、社会福祉の歴史、また近代日本の歴史においてもきわめて貴重なものとなっている。この貴重な史料については、現在、整理と保存にむけての作業を進めている状況である。

ところで博愛社の史料整理と研究面についてみると、例えば近代日本の児童養護の代表的な施設の一つ、石井十次が創設した岡山孤児院に比しても整理・保存作業が遅れているばかりでなく、創立者の小橋勝之助や彼の死後、博愛社の経営に尽力した弟の実之助、あるいは同労者の林歌子、そして博愛社の詳細な歴史研究については、今後の課題として残されている。博愛社の創立者小橋勝之助に関する史料は日誌のほかにも創立以前からの彼の自筆雑記(「衛生感想録」「雑録」等)が残されており、社会福祉史やキリスト教史等々からも貴重なものとなっている。一方、博愛社には小橋実之助や林歌子、小橋カツエの日誌、あるいは博愛社の業務日誌、書簡、機関紙等も多数残存している。研究の遅れは偏に史料整理の遅れに相関しているところでもある。

この中で創立者小橋勝之助個人の日誌に相当するものとしては3冊現存している。その3冊のうち、一番古い日誌は1886(明治19)年8月27日から87(明治20)年8月11日までのものであり、『小橋日誌』というタイトルが付されている。大きさは縦16.5センチ、横11センチであり、墨筆で和装43丁から成っている。2冊目は1887(明治20)年8月12日から91(明治24)年10月30日までのものである。これは罫線の入った、いわゆる「大学ノート」(縦20センチ、横17センチ、160頁)に墨筆で記されているもので、小さい文字で横書きの体裁をとっている。彼の当時書いた他の史料は凡て縦書きであることから、珍しいものである。3冊目は表紙に「天路歷程」と墨筆で記されているもので、1892(明治25)年2月21日から同年9月10日までのものである。サイズは縦20センチ、横16センチで和装86丁からなる。但し、1891年11月1日から92年2月20日までの日誌の所在については未だ確認していない。

ところでこれらの日誌についてはこれまで西村みはるが、1886年8月27日から翌87年12月31日までを翻

---

\*キーワード：小橋勝之助、博愛社、聖公会

\*1関西学院大学社会学部教授

\*2関西学院大学 COE リサーチアシスタント

\*3関西学院大学大学院博士課程後期課程

刻している（西村「翻刻 小橋日誌」『社会福祉実践思想史研究』151～233頁）。しかしこの史料解説については原文に忠実に翻刻したものでないという問題点や読み違いも存し、我々のグループは再度これらを最初から解説していく作業を続けている。ここでは西村みはるの翻刻分と少し重複するところもあるが、第4学期と第5学期に相当するものを掲載することにした。以下小橋勝之助について若干、説明を加え、この日誌の背景と翻刻の意味についてみておくことにしよう。

## 1 小橋勝之助について

小橋勝之助（1863～1893）は1863（文久3）年2月25日、播州赤穂矢野村瓜生（現相生市）で生まれている。生家は土地の旧家で7人兄弟の長男として誕生したが、15歳の時、父亀治郎が他界する。80年、彼は医者になるべく神戸医学校で学び、その後さらに医学を学ぶため東上し、独語学校、済生学舎等で学んだ。東京では弟実之助との共同の生活を送ることに成るが、肺を患いベルツ博士に診察してもらう。そして少年時からの不摂生が病の原因であることを痛感することになる。一方、当初、彼は高瀬真卿の感化事業に参画し、感化心学会、感化協会の設立に参加し、私立予備感化院（東京感化院）の講師ともなるが、感化問題や心学等にも関心を抱き、1890年に感化院を創設すると計画している。しかし、高瀬の事業から離れ、後生に大きな影響を持つキリスト教に巡り会う。このキリスト教への出会いも精神的彷徨の必然的帰結であった。かくて、1886（明治19）年10月から築地の三一神学校に入学し、キリスト教にも深く関心を抱き、聖公會ウイリアムズ監督（Williams, C, M 1829～1910）の牧する神田教会に通うようになる。そして87年5月、ウイリアムズ監督より洗礼を受けるに至るのである。そしてこの教会で当時立教女学校の教師であり、後に博愛社に奉仕する林歌子や小野田鉄弥らと邂逅することになる。ちなみに林も翌月26日に受洗する。後に博愛社に関わる人々がキリスト教をとおして、信仰の共同体を形成していたことは興味深い。

しかし1888（明治21）年9月、母が死去し勝之助は家業に専念しなければならなくなり、神学校卒業を待たずしての帰郷を余儀なくされた。そして小橋は故郷と周辺の地でキリスト教の伝道活動を行うことになる。しかしこれは同族から「耶蘇教」という異教者を出したということで親類らの迫害に遭遇する。さらに勝之助は同年11月、肺疾患のため神戸病院に入院し、翌89年6月には親類の三木善五郎よりキリスト教信仰ゆえに、勝之助やその兄弟に対し、絶交状が送られる。しかし小橋はかかる迫害に屈せず、己が信念を貫いた。同年9月、勝之助は転会を希望し姫路教会、神戸多聞教会、明石教会を転々し西播地方の伝道を行なっていった。同年12月、組合教会のアッキンソンより伝道士の資格を得ることになる。そして彼はキリスト教信仰と伝道の一環として、教育事業にも関心を示し始めることになる。

かくて1890（明治23）年1月、小野田鉄弥、沢田寸二、前田英哲、弟実之助らと共に、故郷に博愛社を創設した。これには小橋家の財産（田畑1町5反、山林原野4町余、家屋2棟等）を捧げたのである。そして博愛社を創設し、いよいよこの大事業の船出をすることとなった。

このようにして博愛社を立ち上げた小橋はその運営に粉骨砕身していくが、一方でそれは病との闘いの日々でもあった。また1891（明治24）年には石井十次の岡山孤児院と合併し、事業を共同でやっていくことになる。しかし濃尾大震災の救済活動等で病は次第に彼の身体を蝕んでいった。そうした中、東京時代の友人林歌子を博愛社に招聘し、精神的安心を得たが、宿痼の悪化と無理がたたなり、1893（明治26）年3月、30歳の若さで亡くなった。その後、弟実之助、林歌子が場所を大阪に移し、今日まで博愛社は多くの人々の支援と努力によって長い歴史を刻んでいき、日本有数の歴史を持つ児童養護施設として現在大阪の地に位置しているのである。

## 2 『小橋勝之助日誌』について一日誌翻刻の意味—

以上小橋勝之助の略歴を記したが彼の日誌には青春時代の夢と病氣、精神的挫折、葛藤、彷徨、そしてキリスト教との出会いといった東京時代の事績が記されている。家庭の事情で帰郷し、1890年博愛社を創

設し、軌道に乗せていくまでの過程、そして岡山孤児院との合併、また病との闘いといった彼の青春を背景にして精神的遍歴が刻まれていると称してよい。そうした時代の精神的遍歴を彼の日誌という生の声で聞くことができるのである。それは青年時代の求道と苦悩、一方で明治国家への志、キリスト者としての生き様の織りなす営為の証であった。

ここで紹介する日誌は既述したように当時では珍しく大学ノートに横書きで認められた2冊目のものである。そして今回ここで翻刻する史料は1887年12月1日から翌年3月9日まで、すなわち第4学期のものと、翌日より6月17日までの第5学期のものである。彼の年齢では24歳から25歳の時に相当する。ここでこの学期とは、小橋自身が100日間を一学期として生活と信仰目標をたてた期間をさす。例えば第1学期は1887年1月28日の日誌に「明廿九日より来る五月の八日迄百日間左の箇条を実行することを決せり」と認めており、「聖書研究」「十戒の遵守」「朝の運動や水浴」等7つの目標を立てている。そしてこの100日目に当たる日（5月8日）に洗礼を受けたのである。第2学期は5月18日から8月22日、第3学期は8月23日から11月30日までである。ちなみに11月30日の日誌には「余の第三学期は今日にて終はれり是の学期内には教会の進歩殊に著しく又余自己の信仰も稍進歩したり又真実に身体も靈魂も神に供へて道の為めに働き又神学を修むるには直接に神の助けを求めて之を研究し又人間の著書論説は之を参考に供するのみにて之に拘泥せず熱心神に求め聖霊の助けを求めて之を研究すべきを決心せり第四学期内に於て定めたる事決心したる事希望したる事は第四学期に於て之を実行し益々信仰に進まざる可らず」と記している。また第6学期は1888年6月18日から9月26日まで、第7学期は同年9月27日から12月11日まで、第8学期は1889年1月1日から4月10日まで、第9学期は同年4月11日から7月19日、第10学期は同年7月20日から10月27日、第11学期は同年10月28日から12月31日である。そして博愛社が創設された90年1月1日からは第一伝道期と記している。

かかる点から今回翻刻するこの日誌は小橋が畢生の事業として構想する博愛社創設前の情況、当時のキリスト教界、そして勝之助の精神の移ろい、葛藤等々を知ることができる、きわめて貴重なものといえる。以下翻刻するにあたって「凡例」を記しておく。

#### 〔凡例〕

- ・原則として常用漢字を用い、固有名詞・地名は原文の文字をそのまま引用した。
- ・史料上の句読点は、日記の記述をそのまま引用した。
- ・判読不能な文字は、□で示した。
- ・原本中で、文字に疑問は無いが意味の通じ難いものについては（ママ）を附し、疑問の残る場合は（カ）を附して傍注した

※本稿の解説は室田、解説は室田、鎌谷、片岡がおこなった。

※この研究は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究課題「大阪『博愛社』の総合的研究—大都市における児童保護の歴史的検証—」（課題番号19530538）の成果の一部である。

#### 第四学期

第四学期は<sup>ママ</sup>記元一千八百八十七年十二月一日より<sup>ママ</sup>記元一千八百八十八年三月九日迄の百日間なり○  
十二月一日（木曜日）午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十時迄前月の事務整理十時より十二時迄授業、喫飯、休息、一時より四時半迄勉学、喫飯、五時より芝区栄町にある聖安得烈教会にある連合祈祷会に臨み勤めをなし祈祷をなし十一時頃帰宅直に祈祷をなして禱に就く○今日夜は瀕りに腹痛をなしたり是れ余が食慾を制して益信仰に進むべきを天父が戒められたるなりと深く信じて疑はず○  
二日（金曜日）午前六時起床、早禱、喫飯、休息今日は腹痛せしにより八時より十二時迄睡眠、喫飯、休息、又一時より五時迄睡眠喫飯後入浴し田井氏を尋ね矢作姉妹の病気を尋ね十時迄矢作氏の宅にあり

其れより中澤姉妹の病気を尋ね十二時迄止まり十二時帰宅祈祷を終へて褥に就く○

三日(土曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、今日は腹痛せしにより十時より運動に出掛け滋養物を食し十二時田井氏を尋ね共に山下雄太郎兄を尋ねしも留守なりし妻君と姉君に道の談話をなし其れより中澤姉妹を尋ね其れより上松姉妹を尋ね談話をなし是れ於て大なる神の摂理の妙なる事を悟りしめ玉へり其れより吉岡君の病気を尋ね午後六時幸田氏の宅に行き十時迄親睦会を開き会するもの三十八人なりし閉会后小野田氏の宅に行き后来の方嚮上に付き互ひに談ぜり十二時帰宅祈祷を終へて褥に就く○

四日(日曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、七時半より会堂に行き八時より十二時迄神の務をなし喫飯後二時迄休息、二時より橘氏、中澤氏、矢作氏、駒井氏、加藤氏、を尋ね七時會堂に行き説教をなし九時閉会其れより小野田氏の宅にて喫飯せり(空腹の節喫飯せし故大に喜びを感じり)十一時迄感話し十一時半帰宅十二時迄祈祷をなし褥に就く○

五日(月曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十時迄勉強、十時半喫飯、其れより田井氏を尋ね大橋三一教会に於て執行さる、小川光恒兄弟の埋葬式に臨めり之を谷中の墓地に送れり四時頃に終り其れより山田久子姉妹、矢作スガ、中澤増江姉妹、大道寺兄弟を尋ね其れより滋養物を食し入浴し休息し祈祷をして十時褥に就く○

六日(火曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄課業喫飯、三時半迄休息、五時迄課業喫飯後石井兄弟の長男永眠せしに就き祈祷会を開き九時閉会其れより十時迄田井氏の宅に於て余の後來修学上の決心を述べ其れより各自祈祷をなし小野田氏の宅に行き中澤姉妹看病の事に付き相談し十一時卅分帰宅十二時迄祈祷をなし褥に就く○

七日(水曜日)午前六時起床、早禱、喫飯を廃し休息勤考し中澤益江氏を尋ね小野田氏を尋ね坂本好子氏の為めに談じ十二時卅分帰宅、喫飯、休息、五時迄課業、喫飯、入浴し會堂に於て九時迄説教をなし其れより祈祷をなして褥に就く○

八日(木曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄教会事務をなせり、喫飯、休息、中澤氏、大道寺氏、矢作氏、石井氏、田井氏を尋ね五時帰宅喫飯、休息、六時より十時迄修行十時より十一時半迄玉越源吉氏群馬馬県へ赴任スルに付き送別宴を開き十一時卅分より十二時迄祈祷をなして褥に就く○

九日(金曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、七時より築地に行き監督に面会し精神を吐露するも言語十分に通せず実に遺憾なりし帰途村瀬兄、駒井兄、幸田氏、田井氏、矢作氏、中澤氏、を尋ね神学校の事及び一大決心の事を話せし今日は大なる恵みを受けし九時帰宅し十二時迄談話をなし聖書を読み賛美を歌ひ祈祷をなして褥に就く○今日暫く肉と其情及び慾とを十字架に釘けりキリストに全く従ふの決心をなせり○

十日(土曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息其れより片平氏の許に行き道を談じ十時帰宅腹痛するに付き十二時迄睡眠、喫飯、休息、一時より川村氏に行き道を談じ帰途田所氏を尋ね六時半帰宅喫飯後委員会に臨み十一時半迄議し十二時祈祷をして褥に就く○

十一日(日曜日)午前六時半起床、早禱、喫飯、休息其れより會堂に行き八時より十一時迄説教、十一時より十二時迄喫飯、休息、十二時より一時迄聖餐を受く○一時より牛込昇天教会に行き二時より四時説教をなし四時より四時半頃に中澤氏の宅に行き喫飯、談話、休息をなし六時十分頃より會堂に行き七時より九時迄説教をなし十時帰宅祈祷をなして褥に就く○

十二日(月曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十時迄自炊一件に付き奔走し十二時勉強し喫飯、休息五時迄睡眠、喫飯、休息、入浴、七時より十時迄休息(腹痛の故なり)十時より十一時迄聖書日課、祈祷、褥に就く○

十三日(火曜日)午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄課業、喫飯、休息、一時より道灌山へ運動に行き浅草へ廻り帰途高橋辰五郎子、寺井正平氏、鶴測初蔵氏、田井正一氏、矢作又太郎

氏、藤田春三郎氏を尋ね十時帰宅せり其より晩禱をなして褥に就く○

十四日（水曜日）午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄勉強、喫飯、休息、二時より五時迄授業、喫飯、入浴会堂に行き七時より九時迄説教をなし九時より十時半迄小野田氏の宅にて談話し十一時帰宅し祈禱をなして褥に就く○

十五日（木曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十一時迄授業、十一時喫飯、其より小野田君の宅に出掛け十二時より築地に行き中野繁利君、鶴澤達質君ニ面会し神学校の事を談じたり又教への話しをなせり二時半頃より芝愛宕下町大島定氏を尋ね道の話しをなし五時四十分其を辞し七時に小野田氏の宅に行き委員会を開き会するもの小橋勝之助、小野田鉄弥、矢作又太郎、佐竹準の四人なり段々后来の方嚮上を談じたり是の日監督より余の学資を給せざる由の書面を得たり今日は余の志を一層堅くなしたり十二時祈禱をなして褥に就く○

十六日（金曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄信者の宅を廻り喫飯、休息、午後四時迄腹痛に付き睡眠せり、喫飯、休息七時迄に矢作氏の宅に行き十一時迄聖書を研究し賛美を稽古し十二時迄晩禱をなして褥に就く○

十七日（土曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息八時より十二時迄授業、喫飯、休息、午後川村氏を尋ね田所氏を尋ね六時半迄に会堂に帰り青年会に出席し九時閉会其より休息所に於て田井氏小野田氏、佐竹氏、余と四人祈禱且つ談話せり十一時半帰宅祈禱をなして褥に就く○今日は食慾の為に非常に侵撃されたり○

十八日（日曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、会堂に行き八時より十二時迄小児日曜学校を教へ祈禱、説教をなせり喫飯、休息、感謝、祈禱会を開き讚美の稽古をなし須藤君の備へをなし、喫飯、休息、七時より十時半迄小児洗礼及び堅信礼を施行せり十一時帰宅十二時聖書、祈禱をなし褥に就く○今日は全く聖く是の日を守れり

十九日（月曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄事務を取り喫飯、休息、一時ヨリ田井氏を尋ね長谷川氏を尋ね小野田氏の宅に行き事務を取り入浴し五時四十分頃より喫飯、休息、七時頃に須藤兄弟の許に行き道を談じ十時帰宅十二時迄事務を取り聖書を読み祈禱をなして褥に就く○今日も亦食慾の為に侵撃されて負けたり残念、ゝ○

廿日（火曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄授業、喫飯、休息、今日藤井氏及藤本氏の来訪あり道を談ぜし三時より五時迄授業、喫飯、休息其より中澤氏を尋ね七時帰宅其より十時迄勉強聖書を読み祈禱をなして褥に就く○今日も食慾の為に侵撃されて亦負けたり残念、ゝ明日より食慾及び其の他種々の妄念起る時は聖書を読みて之を抑制すべし○

廿一日（水曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息八時より出掛け田井氏を尋ね長谷川氏を出掛け豊島氏を尋ね小野田氏を尋ね帰宅十二時喫飯、其より浅草に行き鶴湖氏を尋ね寺井氏を尋ね小野田氏の宅に行き六時迄談話し六時より七時迄説教の備へをなし七時より九時迄説教をなし九時より十一時迄クリスマス相談をなし十一時半帰宅、祈禱をなして褥に就く○今日も復食慾の為に侵撃されて負けたり残念至極なり○

廿二日（木曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄授業、喫飯、休息、一時より五時迄授業、喫飯、休息、田井氏を尋ね共に会堂に行き暫時止まり入浴し九時帰宅十時迄聖書を読み祈禱をなして褥に就く○

廿三日（金曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十一時迄名刺を書きし喫飯、豊島氏を尋ね橋氏を尋ね二時頃会堂に行き飾りの手伝へをなし喫飯、休息、又入浴し其れより九時迄会堂に在りて其れより山村氏の宅に行き十一時迄在りて其れより帰宅祈禱をなして褥に就く○

廿四日（土曜日）午前六時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十時迄説教の備へをなし、十時喫飯、其れより浅草へ行き十二時に上野公園内八百善に帰り準備をなし午後一時卅分より讚美を歌ひ祈禱をなし菅間徳二郎氏、村瀬栄助氏、林ウタ氏、田所貢氏、田井正一氏、席上演説あり讚美茶菓の楽しみをな

- し其の後小橋勝之助氏、中澤信四郎氏、小野田鉄弥氏、中澤益江氏の戯謔演説あり讚美をなし晚餐を食し讚美を歌ひ幻灯を映し、其後茶菓を喫し讚美を歌ひ村岡素一郎氏の感話あり其の後橘幸氏、橘やえ氏の作の讚美を歌ひ祈祷をなして矢作又太郎氏の祝辞あり又讚美をなして祈祷をなして閉会せり時に八時卅分なりし其より委員のもの九時卅分迄止まり其より矢作又太郎氏の宅に行き相共に讚美し祈祷し十一時卅分に至る十二時帰宅其より日誌を記し聖書を読み祈祷をなして褥に就く○今日会するもの男女百三十名余でありし今日は天父より大なる恩籠を受けたり○殊に余の天父に感謝すべきは余の恩籠を受けて改心の功を奏する原種を受けてより満一個年なり故に明日より尚一層の恵みを受けて益々信仰に進まざる可らず○今日の辻裏は（我儕も新しき生命に行むべし、羅、六ノ四、）なり○
- 廿五日（日曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息八時より会に行き九時より午後一時に至り祈祷、説教、聖餐ありし喫飯後、休息、二時より四時卅分迄説教、其より帰宅、喫飯、休息、七時迄に会堂に行き七時より九時迄説教、九時より田井氏の宅に行き十一時迄談話し其より帰宅祈祷をして褥に就く○
- 廿六日（月曜日）午前七時卅分起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄心の備へをなし喫飯、休息、一時より四時迄転宅せり喫飯後、会堂に行き七時より九時迄祈祷会を開き九時より十一時迄小野田氏と談話し十一時半帰宅祈祷をなして褥に就く○今日の祈祷個条は（伝道者の為め）司会者佐竹準氏なり○今日の転宅は是れ天父の御許しを蒙りたるなり故に十分に節儉を行ひて天父の御栄光を顕す可きなり○
- (廿七日) (火曜日) 午前七時起床、早禱、喫飯、休息八時より岡野席吉氏の宅に行き神学校の事及び后来の方嚮上のを談じ午後二時に至る帰途村瀬栄介氏の宅に立寄り道の談話をなし五時帰宅喫飯后会堂に行き祈祷をなし（日本全国信教の為め）司会者ハ小野田鉄弥氏なり九時閉会其より休息所に於て種々協議し十一時卅分に至る帰宅祈祷をなして褥に就く○今日議せし神学校の個条は別に日々祈祷科目中に記載す○今日来年より神学校へ出る事を決せり○
- (廿八日) (水曜日) 午前六時起床、運動、早禱、喫飯、休息、七時より築地へ行き中野繁利氏鶴澤達貞氏、中野倉吉氏と余と四人神学校改良一件に付き秦春舟君を尋ね種々談じ其より多く多治見十郎君を尋ねしも不在なりし其より今井寿道君を尋ねしも不在なりし、其より吉澤直江君の宅に行き昼飯を喫したり同君の宅に於て今井寿道君に出逢ふたり休息して牛込区矢来町一番地山縣与根二君の宅を訪しも不在なりし其より自宅に帰り暫時休息して田井正一氏を尋ねしも不在なりし、其より矢作又太郎兄の宅に行き晚餐を喫して帰宅し説教の備へをなし会堂に行き説教をなし祈祷をなし九時十分に終り其より十一時卅分迄小野田氏と歓話し十二時帰宅祈祷して褥に就く○
- 廿九日（木曜日）午前七時起床、運動、早禱、喫飯、休息、九時より十二時迄事務を取り喫飯、休息、小山杏吉君、中澤信四郎君、林歌君の来訪あり五時喫飯、休息、会堂へ行き祈祷会を開き（日本聖公会の為め）九時閉会十一時小野田氏の宅に於て談話し帰宅祈祷をなして十二時褥に就く○
- 卅日（金曜日）午前七時起床、運動、早禱、喫飯、休息、九時より十二時迄書翰認め会計をなし喫飯、休息、佐竹準氏、矢作又太郎氏の二人の来訪あり午後共に中澤益江氏を尋ね大道寺菊五郎氏を尋ね宮内丈三郎氏を尋ね道の談話をなし其より小野兄（田脱力）の宅に行き四時より六時迄睡眠し喫飯後七時より八時半迄祈祷会を開き其より十一時迄小野田氏と道の談話をなし十二時帰宅一時迄日誌を記し聖書を読み祈祷をなして褥に就く○
- 卅一日（土曜日）午前七時起床、早禱、断食、八時より小野田氏の宅に行き十一時迄事務を取扱ひ其より田井氏、山村氏を尋ね十二時帰宅喫飯、其より中澤氏を尋ねまた小野田氏の宅に行き午後五時迄事務を取扱ひ其より橘氏の宅に行き晚餐を喫し七時会堂に行き祈祷会を開き八時半閉会其より十時迄事務を取扱ひ其より帰宅十二時迄年賀の書翰を認む即ち（布施禎二、中井常次郎、矢野善蔵、小橋良之助、小橋母上、小野田春岱、小橋平四郎、芳賀良輔、前田英哲、井内中正、矢野真吾、矢野温、神吉翁次郎、高橋国蔵、）一時迄聖書を読み祈祷をなして褥に就く○余は当年中に凡ての慾を制せしと雖

とも独り食慾を制する事能はざりし来年になれば断然食慾を制して無我無慾の聖徒となりたきものにてこそ○紀元一千八百八十七年は今日にて終はれり本年は余の生涯の中にて特別大書すべき大革命の年なり○

茲に兄弟姉妹天父の御恩寵によりて満足と喜樂とに充されて一千八百八十八年を新しく迎へたり欣賀々々一月一日(日曜日)午前七時起床、早禱、運動、喫飯、八時より会堂に行き十二時迄神に仕ひ喫飯後に四時迄説教をなし喫飯後休息七時より九時迄説教其より清水省吾君と共に帰り十一時迄歎談祈禱をなして禱に就く○

二日(月曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、八時より年賀に出掛け九時半会堂に行き感謝会を開き十二時喫飯、休息、二時迄心の備へをなし二時より四時迄説教会を開き其れより休息心の備へをなし喫飯后会堂に行き説教会を開けり九時開会其れより十一時迄小野田氏と談話をなし十一時卅分帰宅聖書を読み祈禱を為して禱に就く○

三日(火曜日)午前七時起床、運動、早禱、喫飯、八時より長谷川氏を尋ね九時廿分迄談話し其より会堂に行き祈禱会を開き十二時田井氏の宅にて喫飯し午後二時より説教会を開き五時帰宅喫飯、休息其より入浴して会堂に行き説教会を開き九時閉会其より十一時迄休息所に於て心の備へをなし十一時半帰宅し聖書を読み祈禱をなして禱に就く○

四日(水曜日)午前六時起床、祈禱、佐竹準氏来りて余を召ぶ則ち早速矢作又太郎氏の宅に行き田井夫婦と中澤親子と矢作夫婦の間に起る云々を聞けり茲に会するもの佐竹準氏、矢作スガ氏、小橋勝之助、矢作又太郎氏の四人なりし其より会堂休息所に行き小野田鉄弥氏と佐竹準氏、余と三人談じ十時より九時迄祈禱会を開き十時より午後0時卅分迄会堂に於て佐竹、林、小野田、矢作、の四人主の聖旨を伺ふべき個條を認め夜再び会して互ひに考ふる所を吐露するを約せり其より休息所に於て喫飯し二時より説教会を開き余と田井氏と説教せり三時より五時迄篤と考へたり喫飯後暫時談話し七時より説教会を開き八時より九時迄又考へ九時より十一時卅分迄昼約せし個條二付き五人して篤と談じ最極に凡ての事神に求め悪魔の靈に打勝ち以て教会の平安進歩を計る事に決せり(委細は祈禱録に記す)十二時帰宅日誌を記し聖書を読み祈禱をなして禱に就く○

五日(木曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息九時より会堂に行き祈禱会を開き祈禱をなし勤めをなし十一時閉会其より休息に於て勉強し聖書、喫飯、休息二時より四時迄説教会を開き会するもの二十五人程なりし其より休息所に於て小野田氏と田井氏的心情を談じ大に神の恵みを感じたり聖書喫飯、入浴、七時より説教会を開き九時閉会其れより田井氏の宅に行き牧会の要理を談じ十一時より帰宅日誌、聖書、祈禱、十二時禱に就く○

六日(金曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息八時半頃より会堂に行かんとする途中矢作スガ氏を尋ね種々教会の事を話し十時に会堂に行き其より祈禱会を開き勤めをなし祈禱をなし十一時より十二時半迄事務上の小会議をなし(是の時議せし事は伝道会議の事、明日開く親睦会の事、伝道会社の事等なり)喫飯、休息、説教の備へをなし二時より四時迄説教会を開き説教をなし休息所に帰り説教の備へをなし喫飯後小野田鉄弥兄と共に幸田氏を尋ね其より中澤氏を尋ね種々悪の靈の働き方を談ぜり七時教会堂に帰り七時より説教会を開き説教をなし九時より会堂休息所に帰り独り考へ居りし其の時會堂より林歌、佐竹準、小野田鉄弥の三氏會堂より帰り来る其の時林歌氏安息日に是の會堂へ来る事を得べからざる書を立教女学校幹事小宮珠氏申来たられたる事を余に話せり是れより田井氏夫婦的心情を委しく探らんが爲めに小野田氏書記となり田井氏と凡ての信徒の間の關係を記せり(是れは小野田氏の記録にあり)午後十二時に至るも終はず會議の席にあるもの小野田鉄弥、佐竹準、小橋勝之助、林歌の四人なり是の次は翌日の記事中にあり

七日(土曜日)昨夜より引続き睡眠をせず教会の事二付き協議したり遂に少しの睡眠をせず午前八時林歌氏の一件二付き小野田、佐竹、小橋の三人田井氏を尋ね談じたり是の時田井氏と三人の間に於て忘念働き調和を失し九時頃休息所に帰り小野田氏ハ小宮氏二逢ひて尋問する所あらんとて築地に行き余

等は祈祷会を開きたり喫飯休息后、林、小野田、佐竹、小橋の四人のものを会堂に於て心情を語り合ひ身体も靈魂も神に献げる事に付き神に求めたり又今日午后幸田氏の宅に於て親睦会を開く筈なりし又都合に付き延期せり晚餐后休息九時頃疲労の余り睡眠に就きて前後を知らぬ様になりたり

八日（月曜日）午前四時起床、信仰上の談話をなし六時に至り聖書、喫飯、復た后来の方嚮上を談じ八時に会堂に行き十二時迄神に仕へ十二時より一時迄聖餐礼を行ふ喫飯、休息、二時より四時迄或る来訪人と道の談話をなし四時より小野田氏と共に自宅に帰り后来の方針上を談じ一大決心を執行する事を主に由て決せり六時聖書、喫飯、七時より九時迄説教九時より十一時迄決心の次第を佐竹、矢作、の兩人に談ぜり其より帰宅、祈祷をなして十二時禱に就く○今日は余の生涯の方針に付き尤も記憶すべき日なり○

九日（月曜日）午前八時起床、聖書、喫飯、休息兄弟共に后来の方針を談じ又中澤益江氏の来訪ありて信仰上の談話をなし喫飯、休息、二時より四時まで疲労の余り睡眠し春川氏、山本為治氏の来訪あり道の談話をなし五時喫飯、休息、入浴其れより小野田氏の宅を尋ね矢作氏夫婦も来たられ十一時迄信仰上の談話をなし帰宅十二時就禱○今日大日本私立衛生会々員を脱する為め其の証券を返附せり○

十日（火曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時迄勉学、喫飯、休息、三時迄勉学、三時より林歌氏と信仰上の談話をなし又加藤順氏来訪されて加藤清三君の事を依頼され之を承諾せり五時喫飯、其より休息所にゆき伝道会議を開き（会するもの小野田、田井、矢作、小橋、）十時開会十一時迄小野田氏と談じ其より帰宅十二時祈祷をなして禱に就く○

十一日（水曜日）午前七時起床、運動、早禱、聖書、喫飯、休息、九時より十二時迄勉学、喫飯、休息、其より幸田氏の宅に行き親睦会場を依頼す其より小野田氏を尋ね后来の方針を談じ三時頃帰宅、五時喫飯六時会堂に行き洗礼の備へをなし説教をなし八時より十時迄休息所に於て佐竹氏と談じ十一時迄小野田氏と談じ其より帰宅聖書、祈祷、禱に就く○

十二日（木曜日）午前七時起床、運動、早禱、喫飯、休息、九時頃より田井氏の宅に行き会堂の飾り取払ひの事及び聖公会委員親睦会の事を談じ長谷川氏の宅に行き種々談話し其より会堂に行き飾り取払ひを助け喫飯、休息、午后二時より四時迄に書籍取調べをなし五時喫飯六時に金助町の講義所に行き小崎氏の説教を聞き八時より小野田氏と共に上野に行き天父に祈祷し十一時に帰宅是の時故郷より書翰到着母は病気になる又良之助の病氣未だ癒へず二月より舎弟の学資を自弁する様申越されたり其より兄弟と共に天父に祈祷し十二時禱に就く○

十三日（金曜日）午前七時起床、運動、早禱、喫飯、休息、九時頃より十二時迄后来の方針上の事を考へ喫飯、休息、二時より小野田氏の宅に行き母の病氣の事を談じ又明朝早く川村氏の宅に行くを約す其れより晚餐を肉食になし五時半帰宅其れより九時迄睡眠し其れより小野田氏の宅に行き十時半祈祷をなして禱に就く。今日試みに菓子を食べせしも左程好ましとも思はざりし。

十四日（土曜日）午前三時半起床、喫飯、休息四時半より四谷に出掛け六時半頃川村正平氏に面会し種々余の精神の在る所を談じ資金の補助を乞ひて承諾を承け又川村秀子氏に面会し道を談じ又資金の補助を約束されたり九時頃中澤氏を尋ね互ひに談じ十一時帰宅林歌氏、佐竹準氏来訪されて道を談じ午后村岡氏来訪されて道を談ぜり四時半喫飯、其より会堂に行き会員総会を開き昨年中の本務、会計、伝道の模様を報じ教会委員、地方会代議員（小橋）、墓地委員（村瀬、矢作）を撰挙し七時半より幸田氏の宅に行き八時より十時迄親睦会を開き十一時帰宅其より十二時迄談話、祈祷禱に就く○

十五日（日曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、八时会堂に行き其より十二時迄説教及び聖書研究あり喫飯、休息二時より四時迄洗礼備へをなし其より休息喫飯、七時より九時迄説教今夜は田井氏欠席監督ウィリヤム氏来られ説教されたり九時より十一時休息帰宅十二時祈祷をなして禱に就く○今夜監督ウィリヤム氏に自費独修を申出でたり而して許可を受けたり○

十六日（月曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息九時より十二時迄小橋母上、小橋良之助、中野繁利、鶴沢達彦、岡野倉吉、袖山由松、大島定への書翰を認めたり十二時喫飯、休息二時より田井氏、小野

田氏を尋ね五時帰宅喫飯休息八時祈祷をなして褥に就く○今日凡ての事務終れり明十七日より定期の学科に取掛るべし○

十七日（火曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息九時より十二時<sup>(ママ)</sup>適中澤増江姉と道を談じ又聖書を研究し喫飯、袖山老母と布施氏の一件を談じ其より暫時聖書研究三時より上野八百善に行き聖公会委員親睦会に臨み凡ての事を協議し九時閉会其より矢作氏の宅に行き暫時談話し十一時帰宅暫時勉強十二時祈祷をなして褥に就く○

十八日（水曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯、休息一時より四時半<sup>適</sup>聖書研究、喫飯、其より会堂に行き、主に仕へ九時より十一時<sup>適</sup>小野田氏と談じ其より帰宅祈祷をなして十二時褥に就く○今晚は二銭値の菓子を喰ひたり又〇をなしたり（熊谷教会及び田村覺太郎への書翰を認む）

十九日（木曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯、休息、午后野上瀧蔵氏、藤田春之助氏の来訪ありて勉強の時を損せり四時半<sup>適</sup>聖書研究、喫飯、休息、入浴、小野田氏の宅に於て談話し七時半帰宅八時より自宅に於て聖書講義九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、祈祷をなして褥に就く○

廿日（金曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休憩、九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯休息、四時半<sup>適</sup>聖書研究、五時喫飯、休息七時より十時<sup>適</sup>石井氏宅に於て聖書研究会を開けり十一時<sup>適</sup>に帰宅し午後一時<sup>適</sup>心の働き上を研究し祈祷をなして褥に就く○今夜は大に真理を發明せり○

廿一日（土曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時半より十二時<sup>適</sup>に四つ谷川村氏へ出張して帰れり帰りたる后林蓬太郎、清水省吾、佐野夏の三氏の方に祈祷し喫飯后二時<sup>適</sup>勉強二時に林歌氏来られ五時<sup>適</sup>道の談話をなし喫飯后、幸田氏の聖書研究会に臨めり十時小野田氏の宅に於て祈祷をなして褥に就く○

廿二日（日曜日）午前六時半起床、早禱、喫飯、休息、八時より十二時<sup>適</sup>神の務めを取り喫飯、休息、午後五時<sup>適</sup>神の務めをなし喫飯、休息、九時<sup>適</sup>神に仕へ十一時<sup>適</sup>小野田氏の宅に於て談話し帰宅十二時<sup>適</sup>祈祷をなして褥に就く○今日は兄弟姉妹大に神の恩寵を感じたり○

廿三日（月曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時<sup>適</sup>山田、濱本、大出の三氏を尋ね喫飯、休息一時より五時<sup>適</sup>睡眠して精神を休め喫飯七時より十時<sup>適</sup>聖書講義十時より十二時<sup>適</sup>勉強十二時半<sup>適</sup>祈祷をなして褥に就く○

廿四日（火曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯休息一時より四時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯后休息感化院に行き印刷物を依頼し其より矢作又太郎兄の宅に行き信仰上の談話をなし八時帰宅九時<sup>適</sup>聖書講義十一時褥に就く○今日は大に疲労せり又今日は種々世の思ひの為めに侵されたり

廿五日（水曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時<sup>適</sup>聖書研究、喫飯、休息一時より四時<sup>適</sup>聖書研究、五時喫飯、其より長谷川氏の宅を問ひ会堂に行き九時<sup>適</sup>神に仕へ其より休息所に於て十一時半<sup>適</sup>談話し其より帰途二銭値の菓子を食せり十二時半<sup>適</sup>祈祷をなして褥に就く。余は未だ十分に神の聖旨に従ふ事能はず又兎角口を勿かせにし易し今より尚熱心主に求めて以て全く主の聖旨に従ふものとならざる可らず○

廿六日（木曜日）午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時頃より時に他出せんとせし処に故郷よりの書翰着したり（是の一通の書翰は余の信仰を大に進めたり之を后日の参考に供せん為めに残し置く）田所貢、聖保羅教会委員、吉田栄吉、布施禎二の四氏への書翰を認めたり十時より田井氏を尋ね暫時談話し其より長谷川氏を尋ね聖書受売の事を依頼し小野田氏の宅に行き昼飯を喫し其れより帰宅二時より長谷川氏に行き販売の聖書を受取り帰宅后腹痛に付き五時<sup>適</sup>睡眠し喫飯后入浴小野田氏に行き八時より会堂に於て感謝会を開き十一時<sup>適</sup>談話し其より帰宅十二時<sup>適</sup>祈祷をなして、褥に就く○今日常に神に祈りし事の六個条を聴かれし則ち（1）母の病氣次第に快方に赴きし事（2）余の資金を故郷より送

る事(3)北川千代吉氏を聖書売の食に就かしめ玉ひし事○天父は余の祈りを聴き玉へり益々励みて信仰に励むべしアーメン

廿七日(金曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時迄聖書研究、喫飯、休息、一時より三時迄聖書研究、腹痛するに付き其れより運動、晚餐は肉食をなせり六時帰宅其より十時迄睡眠十一時迄故郷への書翰を認め午前二時祈祷をなして禱に就く○今日は過て〇をなせり又Qを食せり○

廿八日(土曜日)午前七時起床早禱、喫飯、休息、八時より出掛けの中澤氏を尋ね九時より十二時迄川村氏へ行き道を談じ一時帰宅二時迄休息林歌氏小野田鉄弥氏の兩人来訪されて道を談じ五時喫飯六時會堂に行き六時半より九時迄神田青年會月次集會を開き其より休息所に於て親睦會を開き十一時より帰宅十二時祈祷をなして禱に就く○今日は尚少々腹痛せり然れども之を耐忍して神に仕へたりし○

廿九日(日曜日)午前七時起床早禱、喫飯、休息、八時に會堂に行き十二時迄神の務めをなし喫飯高橋政藏氏の父の病氣を伺ひ二時より神の務めを取り四時より加藤左馬治氏の宅を尋ね六時帰宅喫飯七時より十時迄會の務めをなし十時より午前二時迄佐竹氏、小野田氏、と共に心情を語り合ひ二時禱に就く○是の日は神の大なる恵みを受けたり

(<sup>(ママ)</sup>卅日)(<sup>(ママ)</sup>月曜日)午前七時起床、喫飯、八時帰宅、熊沢氏、来訪されたり今日は孝明天皇祭日なり則ち終日伝道の為め働かんとして十時頃より佐竹、小野田、北川、小橋二人芳賀二人矢作氏の宅に行き十一時喫飯余と北川其の他三人路傍説教に出掛小野田、佐竹、矢作の三氏ハ自宅巡回に出掛けたり余等ハ五時半帰宅、小野田氏等は七時帰宅其より共に喫飯、休息今日の伝道の模様を談じ今日は大に神の恵みを受けたりし祈祷をなして禱に就く○

(<sup>(ママ)</sup>卅一日)(<sup>(ママ)</sup>火曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、八時頃より湯島天神町に火災ありて之に赴く十時帰宅、十二時迄書翰を認め喫飯、休息其より小野田氏の宅に行き小野田平次郎氏と共に金井登氏の病氣を尋ねしも全快の目的なきにより退院をせられ同氏と面會せざりし其より小野田鉄弥氏とともに河野氏の令嬢の病氣を尋ね五時頃帰宅喫飯、入浴、七教會への葉書を認め再び小野田氏の宅に行き十一時迄談話し十時半帰宅祈祷をなして禱に就く○今日はQを食せり○

二月一日(水曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休憩、九時より十二時迄聖書研究喫飯、休息暫時睡眠、三時より五時迄説教の備へをなし喫飯、會堂に行き六時より九時迄神の務めを取り九時より十一時迄小野田氏の宅に於て談話し帰宅祈祷をなして十二時禱に就く○

二日(木曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息、九時より十二時迄聖書研究、十二時より一時半迄神吉氏、大國氏、三輪氏と共に食し其より中澤益江氏を尋ね五時迄談話し帰宅喫飯、休息其より會堂に行き七時より九時半迄祈祷會を開き其より休息所に於て委員相會して田井氏の事に就き相談し十二時に至る帰宅祈祷をなして午後一時禱に就く○今日は尤も世の思ひの為に閉じられたり又Qを食せり

三日(金曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時半より十二時迄聖書研究、喫飯、休息神田福音青年會員河合氏来訪されて連合の事談じ来る十一日親睦會を開く事に相談せり二時より四時迄路傍説教に出掛け五時帰宅喫飯入浴七時より十一時迄聖書研究、十一時祈祷をなして禱に就く○今日は始終腹痛をなせり是れ二三日來食物に不可を生ぜしに由る慎しむ可し

四日(土曜日)午前七時起床、早禱、喫飯、休息、八時より川村に行き道を談じ故郷より母大患に付き帰郷すべき由を申來れり即ち川村氏に金六円を頂戴し后来の事を万事談じ十二時帰宅喫飯、休息、二時頃林、松原の兩姉妹來られ又佐竹、小野田の兩兄弟も來られ種々后来の事を談じ午後十二時に至る十二時頃疲労して知らず知らず禱に就く○今日來る六日正午發の和歌浦丸に投じて帰宅する事に決せり、

五日(日曜日)午前四時起床、早禱、喫飯、休息、七時迄談話し其より會堂に行き八時より十二時迄神の務めをなし喫飯、休息、其より帰宅し荷物を揃へ五時小野田氏の宅に行き晚餐を食し休息、七時より九時迄説教をなし九時より十時まで告別の祈祷會を開き其より兄弟姉妹に別を告げ中澤益江氏の許に行き別を告げ矢作兄の宅に行き別を告げ午後一時迄談話し其より帰宅して徹夜せり○

- 六日（月曜日）昨夜より徹夜し四時ごろ喫飯し五時より新橋停車場に至る小野田氏佐竹氏の両氏に見送られたり七時に汽車発し八時に横浜に着し暫時聖書を読み休息し十時に喫飯十一時に船に乗込に十二時喫飯し其より睡眠し船の抜錨するを知らざりし五時喫飯其より又睡眠し船は既に大海中にあり○
- 七日（火曜日）午前七時起褥、喫飯、其より暫時聖書を読み又睡眠に就く十二時喫飯聖書を読み或は睡眠し午後六時頃神港に着し安藤嘉右エ門氏の宅へ上り入浴して小橋平四郎氏宅に行き茲に寓れり午後十一時就褥、
- 八日（水曜日）午前八時起褥、早禱、喫飯、舎弟実之助久しく三度の粥の他何も食せざりしに俄かに美食をなせし故に大に身体に異情を生ぜり（則ち左肋部疼痛を生じ熱発せり）今日結局小橋平四郎宅に逗留せり午後十時就褥。
- 九日（木曜日）午前八時起褥、喫飯其より兵庫より船に乗らんとて行きし午後二時迄待ちたりしに船出帆せざりし四時頃一度三ノ宮に帰り其より人力車に乗り明石に行き籠屋に投宿したり○
- 十日（金曜日）午前六時起褥、喫飯、七時より宿所を發し御着に行き井内氏を尋ねしも不在なりし遂に午後八時頃故郷に着し母及び兄弟親戚に対面し大に喜びたり○東京より故郷に至る旅費金十三円七十六銭五厘要せし○
- 十一日（土曜日）午前七時起褥、喫飯、八時より十二時迄家事をなし喫飯、休息二時より六時迄家事をなし喫飯、夜十時迄家内談話し祈禱をなして褥に就く○
- 十二日（日曜日）午前七時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄勉学、喫飯、休息午睡、水守俊齋氏来られ診察を乞ひたり喫飯、休息、談話、十時頃褥に就く○六月より今日に至る七日間は三度の飯も不可にして間食をなし且勉学を怠りたり明日よりは一層励むべし
- 十三日（月曜日）午前七時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄聖書研究、看病、喫飯、休息午后家事奔走、喫飯、休息、談話聖書祈禱、就褥、
- 十四日（火曜日）午前七時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄聖書研究、喫飯、休息二時より五時迄聖書研究、喫飯、休息、七時より十時迄書翰認め且つ聖書研究、十時祈禱就褥、○今日は $\bar{O}$ をなせり
- 十五日（水曜日）午前七時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄聖書研究、喫飯、休息、二時より五時迄聖書研究、喫飯、休息、八時より十時迄聖書研究、祈禱、就褥、
- 十六日（木曜日）午前六時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄聖書研究、喫飯、休息、二時より五時迄聖書研究、運動、入浴、喫飯、七時より十時迄聖書研究、祈禱、就褥、○
- 十七日（金曜日）午前七時起褥、早禱、喫飯、八時より十二時迄聖書研究、喫飯、休息、午后前田英哲氏を尋ね夜十二時迄宗教を談じ直二就褥、
- 十八日（土曜日）午前六時起褥即時に帰宅午前中は室内の掃除をなし喫飯、午后は書翰を認め喫飯、休息、夜十時迄書翰を認め十時就褥、○毎安息日の夜自宅に於て道徳談話会を開く事を決せり
- 十九日（日曜日）午前六時起褥、七時頃より本家の祖母小橋エイ発病し八時頃既に死去せり其より人を親戚に馳せて明日の葬式を通知したり喫飯、休息、家を片付けて明日の用意をなせり喫飯、死者のトギをなし午前の二時に至る遂に就褥す○
- 廿日（月曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、今日は終日葬式に打掛かれり今日は天父の許しを得て仏家の式に列せり但し余卅歳に至りて公けに伝道する時は今日の場合に於ては決して列せず午後十時頃褥に就く○
- 廿一日（火曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、今日は終日灰寄せに打掛りたり又東京への書翰を認めたり又聖書をも読みし午後十時就褥、
- 廿二日（水曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、今日は終日家事を取扱ふたり又福本傳之助氏、前田英哲氏の来訪ありし午後十時就褥、今日はQ及び $\bar{O}$ をなせり○
- 廿三日（木曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、午前中は家事をなし喫飯、休息、午後暫時睡眠し其より菅谷村教順寺に行き道徳談話をなせり喫飯、休息、夜は家事をなし書翰を認めたり十時就褥、

- 廿四日（金曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、八時頃より龍野へ行き要用を済まし喫飯、休息、帰途前田氏へ立寄り後来の事を談じ谷田治左エ門殿、藤田定右エ門殿を尋ね帰宅喫飯、休息、九時頃疲労の餘褥に就く○今日林歌氏、松原茂氏の書翰着せし大に心を慰めたり
- 廿五日（土曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、八時頃より十二時頃迄聖書研究、喫飯、休息、暫時、睡眠、歴史研究、喫飯、休息運動、山上祈祷、聖書研究、家族談話、午前二時就褥、○今夜は母に世の基督信徒たる事を言ひ頭はせし是れ全く天父の導きによるなり○
- 廿六日（日曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、八時頃より十二時頃迄聖書研究、喫飯、休息午後聖書研究、喫飯、休息、夜基督教理を談じ是の夜三四のもの来聴せり余の基督教を信ずるを聞き大に驚きたり、
- 廿七日（月曜日）午前七時起褥、喫飯、休息八時頃より十二時頃迄聖書を研究し午后四時頃迄睡眠し夜は聖書を研究せり十時就褥す（今日ハ母兄弟と共に后来の事を談じたり）
- 廿八日（火曜日）午前七時起褥、喫飯、休息八時頃より十二時頃迄聖書を研究し喫飯、休息、午後五時頃迄聖書研究、喫飯、休息、六時頃より十時頃迄聖書研究、十時より午前二時頃迄基督教理を談じたり今日は神の恵みにて余の基督信者なる事を益々明らかに証明せし○今日中澤益江姉の書翰着して大に喜びし○
- 廿九日（水曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、八時頃より十二時迄聖書研究喫飯休息、午後五時頃迄聖書研究、喫飯、夜中野村前田英哲氏を尋ね午前三時頃迄談話し就褥、
- 三月一日（木曜日）午前九時起褥、喫飯、帰宅、午前中は先月中の計算をなし喫飯后疲労して睡眠し喫飯、夜は書翰を認めたり又今日古澤格一氏に基督教を談ぜり十時就褥、
- 二日（金曜日）午前九時起褥、喫飯、休息、午前中は聖書を研究せり喫飯、休息、午後六時頃迄少々気分を悪くして就褥、喫飯、夜は前田英哲兄、藤田覚太郎兄来られ聖書講義をなせり今夜は前田英哲兄の一大決心をなせり（則ち其の身を伝道に擲つ事を決せり）午後十二時就褥、
- 三日（土曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、十二時迄は聖書研究、喫飯、休息、午後腹痛にて睡れり夜は聖書講義せり十二時就褥、
- 四日（日曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、藤田覚太郎君来訪されたり喫飯其より子犬丸へ行き暫時前田薫君の宅に於て談話し喫飯休息、八時より十時迄石田治左エ門宅に於て道德講談会を開き（財貨の爲めに身を殺す勿れ前田英哲、人とは何ぞや小橋勝之助）十時閉会其より帰宅十二時祈祷をなして褥に就く○
- 五日（月曜日）午前六時起褥、十二時迄聖書研究、喫飯、休息、午後五時頃迄睡眠夜は角膜炎を患へて休めり十時就褥、
- 六日（火曜日）午前八時起褥、喫飯、休息、九時より前田英哲兄の許に行き眼病の薬を貰ひ午後一時帰宅喫飯、休息、五時頃迄眼病の爲め休養、喫飯、休息、八時より十時頃迄休息、祈祷、就褥、
- 七日（水曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、十二時迄聖書研究、喫飯、休息午後より夜へかけて本家の叔父神戸へ帰るに付き家事勉強、十二時就褥、
- 八日（木曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、十二時迄聖書研究、喫飯、休息、午後休睡し喫飯、休息夜は家事に勉強、十時就褥、
- 九日（金曜日）午前七時起褥、喫飯、休息、十二時迄聖書研究、喫飯、休息五時迄聖書研究、喫飯、休息、六時頃より母の病氣次第に重くなり子宮疼痛を発し且つ多くの血下れり之に由て水守氏、前田氏、芳賀氏を聘して診察を乞ひ十二時頃就褥、

## 第五学期

第五学期ハ一千八百八十八年三月十日より同六月十七日迄の百日間とす是の間になすべき事は（1）聖書素読（2）聖書注釈（3）神学上の雑書（4）歴史学并ニ地理学（5）子弟教育、（6）母看病（7）家

- 事認督なり故に食物を節し運動を適宜にして身心を健康に保持し以て以上の職務を尽すべし、
- 十日（土曜日）午前八時起床終日母の看病家事取片付に尽力せし夜は或は医師と道を談じ或は仏法信徒と道を談じ殊に十二時頃伊藤太右エ門（仏法信者）氏と道を談ぜし午前二時頃就褥、
- 十一日（日曜日）午前八時起床、是の日も終日看病及び家事に従事せし又一昨日来の疲れにて久しく睡眠せし夜は母に三誓<sup>(カ)</sup>を読みみて聞かして十一時頃就褥、〇をなせり
- 十二日（月曜日）午前八時起床、今日も終日家事及び看病に尽力せり又夜は前田英哲兄来られ種々道を談ぜり十二時祈祷をなして褥に就く〇今日小野田鉄弥兄よりの書翰着し大に慰めを得たり〇
- 十三日（火曜日）午前八時起床、今日午前中は書翰を認め午後は田淵静暁氏の葬式に列せり晩方より有志親睦会に臨み基督教理を談じ夜は家族と道を談じ且つ書翰を認めり十二時祈祷をなして褥に就く〇
- 十四日（水曜日）午前八時起床、今日午前中は聖書研究、喫飯、午後亦聖書研究、喫飯、夜は道の談話をなせり十二時就褥、
- 十五日（木曜日）午前八時起床、今日は終日宗教上の談話にて暮らせり夜は芳賀氏に行き裕之助兄后来の方嚮上及宗教談話をなせり十二時褥に就く〇
- 十六日（金曜日）午前八時起床、今日は終日家事経済の事に従事し夜は母に道の談話をなしたり十時就褥、
- 十七日（土曜日）午前九時起床、今日も終日家事経済の事に従事し夜も亦后来の事を談じ午前二時就褥、〇
- 十八日（日曜日）午前十時起床〇終日家事経済の事に従事し夜も亦然り十時就褥
- 十九日（月曜日）午前五時起床、其より喫飯及び旅行の用意をなし母を籠に乗せ姫路病院へ連れ行き午後二時頃到着し其より診察を乞ひし処子宮癌なると診断されたり今日は七里の道を歩行せし故に疲労し六時頃褥に就く〇
- 廿日（火曜日）午前六時起床、今日は或は散歩し或は看病し或は睡眠し或ハ聖書を読み終日暮らせり午後十時就褥、〇
- 廿一日（水曜日）午前七時起床、今日は聖書を読み母の看病をなし又は散歩し或ハ談話して夜十二時頃就褥、〇
- 廿二日（水曜日）午前七時頃起床、今日は聖書を読み母の看病をなし又ハ散歩し或ハ談話し夜十二時就褥す〇
- 廿三日（金曜日）午前七時頃起床今日ハ或ハ聖書を読み母の看病をなし或は散歩し夜は姫路基督教会に行き祈祷会に列せし而して姫路の兄弟姉妹方に面会せし此の夜余も感話をなせし十一時就褥、
- 廿四日（土曜日）午前七時起床、午前中は聖書を読み午後より夜へかけてテアテルを見にゆけり（是れ実に誤りなり）午後十一時頃就褥、
- 廿五日（日曜日）午前七時起床、今日は母上を籠に乗せて故郷へ帰る用意をなし居りしが朝より少し降雨あり昼頃に至り益々甚し午後二時より故郷より迎へに来たりし其より帰途に就きし余ハ途中より人力車に乗りて帰りし午後七時子犬丸に帰りて喫飯九時頃就褥、
- 廿六日（月曜日）午前七時起床、今日午前は子犬丸村より帰り聖書を研究し又今日は立田重太郎氏の書翰、北川千代吉氏の書翰、小橋平四郎氏の書翰着して之を読みし夜は基督教の談話をなせし又后来の改革上二付き彼是れ論じたり是れ全く無益の事なりし之れが為に神の聖旨に欺きし事ありし以后かゝる論ハ慎むべし午前三時就褥、
- 廿七日（火曜日）午前七時起床今日午前は暫時聖書を研究し前田英哲兄来訪あり夜十時迄后来の方針上を談ぜし十時就褥、〇
- 廿八日（水曜日）午前七時起床、今日は余の生涯に取り尤も大切なる且つ大関係の在る日なり則ち余は一家の事務を脱離し日本宗教改革に専ら従事する事に家族協議の上決定す夜十時頃迄家事を取り就褥す、

- 廿九日（木曜日）午前二時頃起褥其より赤穂登記所に行き午後二時頃砂子の寺に行き三時頃濱市三木に帰り晩迄睡眠し夜本家の事を談じ十時頃就褥、
- 卅日（金曜日）午前八時頃起褥、暫時本家の百円の口買戻しの事を談じ其より瓜生村へ帰宅夜八時頃就褥、
- 卅一日（土曜日）午前二時頃起褥、赤穂登記所に行き午後六時頃帰宅夜十時頃就褥、
- 四月一日（日曜日）午前八時頃起褥、午前は林歌、松原茂、監督ウキリヤム氏への書翰を認む午後は立田嘉七殿来訪されて立田重太郎氏の后来の方嚮上につき談ぜり又立田重太郎氏への葉書を認む夜は芳賀氏を尋ね芳賀裕之助兄の事に付き談ぜり帰宅十二時頃就褥、
- 二日（月曜日）午前八時頃起褥、午前は芳賀氏より裕之助勘当すべきの書翰来れり暫くして玄良氏来談されたり午後ハ姫路へ行かんとせしも遂に止めたり夜は聖書研究、十時就褥、
- 三日（火曜日）午前八時頃起褥、午前中ハ聖書研究、午後ハ母の病気内診をなせり夜は聖書研究、十二時就褥、
- 四日（水曜日）午前八時頃起褥、午前聖書研究、午後ハ山林検査、母の看病、夜は聖書研究、芳賀裕之助氏への書翰を認め十時就褥、
- 五日（木曜日）午前八時頃起褥、午前ハ聖書研究、午後も亦聖書研究、晚餐后山上へ運動して説教の演習及び祈祷し夜聖書研究、十時就褥、
- 六日（金曜日）午前八時頃起褥、午前ハ聖書研究、午後ハ亦聖書研究、晚餐后山上へ運動して説教の演習、及び祈祷し夜は家事をなし又長き間談話をなし午前二時就褥、
- 七日（土曜日）午前八時頃起褥、午前は聖書研究、午後も亦聖書研究、晚餐后畑を耕して運動し夜は又歴史研究十時祈祷をなし褥に就く○
- 八日（日曜日）午前八時頃起褥、午前は聖書研究、午後聖書研究、母の看病喫飯后運動の為畑を耕し夜八時就褥、
- 九日（月曜日）午前八時頃起褥、午前は聖書研究、午後聖書研究、母の看病及び睡眠、夜は聖書及び歴史研究、十二時就褥、
- 十日（火曜日）午前八時頃起褥、午前は聖書研究、午後聖書研究、夜は舍弟に普通学教授十時就褥、
- 十一日（水曜日）午前八時起褥、午前は聖書研究、午後は聖書研究、夜は森村光専寺に行き坂上の和田□僧と宗教上の談話をなし午後十二時就褥、
- 十二日（木曜日）午前八時頃起褥、午前は前田英哲兄神戸より帰り来たられ後午へかけて神戸の旧友の精神の方嚮を聞けり或は基督教を既ニ信じ或は賛成家なりし由午後ハ水守氏来訪されて三人立会ひの上母の内診をなしたり夜は舍弟教育又是の日終日職務を怠りしにより気分悪かりし夜祈祷会を開き后来の方針を神に求めたり午後十二時就褥、○今日は姫路教会牧師内田正氏に西播五郡内伝道の法方を問ひ合わせたり、○
- 十三日（金曜日）午前八時起褥、午前は聖書研究、午後は聖書研究、夜ハ舍弟教育十二時就褥、
- 十四日（土曜日）午前八時起褥、午前は朝聖書を読み母の子宮を洗滌し其の後若狭野村大崎良平氏福本伝之助氏下土井村水守立節氏（不在）水守俊□氏を訪問し午後四時頃帰宅小橋平四郎殿よりの来翰ありて直に返書認む夜は舍弟共の教授をなし又聖書講義ありし（前田英哲氏来談されたり）十二時就褥、
- 十五日（日曜日）午前八時起褥、午前ハ聖書研究、午後は山へ散歩し又聖書研究、夜は舍弟教育、歴史研究、十二時就褥、
- 十六日（月曜日）午前八時起褥、午前ハ聖書研究、午後も亦、聖書研究夜は前田へ花見に行き九時過ぎ帰宅聖書講義をなして十一時頃就褥○今日石田治左エ門殿来られ揖西郡にては余の基督教を信するに付き僧侶及び仏徒が其の真理に照され反省して己れの非を悟り懸けし由なり。今日次ぎの如く第五学期日課順序（三月十日より六月十七日迄の百日間）を定む（1）起褥、（2）朝運動（3）讚美祈祷、（4）旧約全書（5）喫飯（6）教会歴史（7）路加伝注釈（8）喫飯（9）使徒行伝注解（10）新

約全書 (11) 讚美祈祷 (12) 喫飯 (13) 晩運動 (14) 夜学教授 (15) 家事執務歴史、伝道 (16) 祈祷 (17) 就褥

●…Onani ▲…Shokuyoku ■…Fundo sono ta no shissaku ▼…Kwagyō wo okotaru ▼…Fukutū

十七日 (火曜日) 今日は午前八時起床、其より以上の規則に従ひて勉強し十二時就褥、○今夜前田英哲氏来談されたり、

十八日 (水曜日) 今日午前八時起床其より以上の日課順序に従ひて勉強し十二時就褥、○今日は東京芳賀、立田、北川の三氏に葉書を出して駕籠運送の儀を依頼せり○●—▲○

十九日 (木曜日) 午前八時起床、今日は午前教会歴史を終はりし時に北川千代吉氏より照会の葉書到着せり直ちに返書を認めり午後は瓜生村夜学舎の規則を認めし又暫時睡眠し夜は日課をなせし十二時就褥○▲—▼—■○

廿日 (金曜日) 午前八時起床、今日は午後使徒行伝注釈迄の課業をなせし時水守立節氏の来訪あり其より晩迄宗教上及び衛生上の談話をなし夜は夜学教授をなし十時頃疲労の余り褥に就く。○▲—▼—■○

廿一日 (土曜日) 午前八時起床、今日は午後使徒行伝注釈迄研究し伊藤太右エ門来訪され種々宗教上の談話をなせし夜は菅谷の教順寺に行き宗教上の談話をなし十二時就褥、○▲—▼—■○

廿二日 (日曜日) 午前八時起床其より朝褥をなし聖書を研究し午後聖書を研究し母の病気を看夜は聖書講義、及び研究、十二時祈祷就褥、○▲—■—▼○

廿三日 (月曜日) 午前八時起床、午前の課業は相済まし午後は前田英哲兄来遊されて宗教上の談話をなし夜は聖書講義をなし又母に道を談じ十二時就褥、○▲—■—▼○

廿四日 (火曜日) 午前八時起床、午前教会歴史の時に子犬丸村内海弥之助氏来訪され道の談話をなせし午後は凡ての課業をなせし夜も亦凡ての課業をなせし十二時就褥、○▲—■—▼○

廿五日 (水曜日) 午前八時起床、今日は積日勉強の疲労にて心身大に疲労せり故に勉強を休み正午前より濱市村三木善五郎氏の宅へ行き家事用を済まし午後八時帰宅十時就褥、●—■—▼○

廿六日 (木曜日) 今日昨日の疲労にて午前九時頃起床、今日終日家事に掛り来て夜は教授をなせし十二時就褥、○■—▼○

廿七日 (金曜日) 今日朝より晩及夜に至る迄の日課を怠なく済ましたり○▲—■○

廿八日 (土曜日) 午前八時起床、其より午後迄の課業を務め午後五時頃より家事用にて三木に行き十二時迄に用事を済まして褥に就く○●—▲—■—▼○

廿九日 (日曜日) 午前八時起床、其より喫飯雨中を犯して帰宅十二時帰宅其れより就眠夜は説教をなせり(今日より公然と安息日を守り得るに至れり)十二時就褥、

卅日 (月曜日) 午前八時起床、午前の課業を八分通り程済ましたる処へ芳賀兄帰り来たりたり正午迄談話し午後小野田鉄弥兄、佐竹準兄、中澤益江姉、北川千代吉兄の来翰を読みし又舎弟の教授をなし夜は談話会を開き右感話をなせり十二時就褥、

五月一日 (火曜日) 午前八時起床、小野田鉄弥兄、川村正年氏、中澤益江氏、小橋平四郎氏への書翰を認む午後村内の議会を開き之に臨み議長となりて夜学会の事を議したり(是れ瓜生村へ神の恵みの降る始めなり)夜は早々就褥、

二日 (水曜日) 午後八時起床、今日は一昨日の疲れにて課業三分の二をなせし夜も亦然り十二時就褥、○—▲—■—▼○

三日 (木曜日) 午後八時起床今日は終日日課を正しくなせし但食欲を制し難きに因り腹痛せり○又水守立節氏より書翰を贈られたり○▲—▼○

四日 (金曜日) 午前八時起床、今日は午前中は勉強し午後は林歌、松原茂、小橋平四郎の三人への書翰を認む又三人よりの書翰受取りし夜は夜学教授をなせし今日も少し腹痛せり十二時就褥、○▲—■—▼—▼○

五日 (土曜日) 午前九時起床、今日は課業を休み午前は母に道を説き且つ療治をなす午後は前田に行き道

を談じ且つ葉の用法を尋問す夜は夜学教授をなす今日も胃部不快なりし十二時就褥、○▲▼■  
▼○今日母の病を療治する器械薬品を購求し又母の靈魂旅立之準備なる記録を備ふ又今日は正二好一  
の兩人大に恵みを受けたり○

六日(日曜日)午前八時起褥、午前中は祈祷、説教、母の伝母療治をなし午後は水守立節氏(雨を犯して)を前田氏と共に問ひ種々談話をなし晚□に帰宅し夜は懇談会を開き(芳賀祐之助、前田英哲、小橋勝之助、小橋実之助、小橋良之助の五人)十二時就褥、▲▼

七日(月曜日)午前八時起褥、午前中勉強し午後は下田村の寺へ真宗の説教を聞きに行きし夜は夜学教授せし十二時就褥、●▼▲▼■○

八日(火曜日)午前八時起褥、今日は日課を九分通りなせし又腹痛にて暫時睡眠せし夜は夜学教授し十二時就褥、▼▼■○

九日(水曜日)午前八時起褥、今日は終日全く日課表に基きて勉強せし午後十二時褥に就く●余は天父の御恵みに由て旧習を脱して新しき生命の道に至るを得しは直に感謝に耐へざる処なり然るに未だ食慾に打勝つ事能はずして身体に不快を感じ常に聖霊を憂へしむ故に自今以後一日三度の食事の処如何なる美味あるも決して食す可らず慎しむ可し誓しむ可し○又日ニ定まりたる日課を務むるを以専らとし又言行を常に聖書に協ふ様注意すべし○

十日(木曜日)午前八時起褥○今日は終日全く日課表に基きて勉強せし今日ハ天父の恵みにて恙なく務めし○

十一日(金曜日)午前八時起褥、今日は午前勉強し午後は休業運動し夜は夜学教授十二時就褥、

十二日(土曜日)午前八時起褥今日午前中は勉強し午後は運動し夜は日課をなし十二時就褥、▲▼■○

十三日(日曜日)午前八時起褥、今日は午前中は祈祷、説教、母の病氣療治、讃美、詩篇、午後は羅漢山に至り讃美、祈祷、聖書読家に帰り母の病氣療治夜は演説会を開き(1)学問せざる可らず小橋正二(2)尔曹求めて尚得ざるは尔曹慾の爲めに費さんとして妄りに求むるが故なり小橋実之助(3)安全の旅行芳賀祐之助(4)汝曹隣人に妄りの証拠を立つる勿れ(独語)小橋勝之助○訳芳賀祐之助○閉会后小橋良之助氏の品行上に就き談じ又母とも談じ是の一家を公然基督教の家となす事に付き協議せり○十二時就褥

十四日(月曜日)午前八時起褥、午前中は勉強午後は勉強傍ら畑を耕やし夜は前田氏来たられ道を談じたり十二時就褥○●▲▼■▼○

十五日(火曜日)午前八時起褥、今日は終日或は運動し或は勉強し夜学教授午後十二時就褥○▲▼■○

十六日(水曜日)午前八時起褥、今日は終日勉強し夜は夜学教授し十二時頃より山内講道君(芳賀氏の親戚)への伝道書翰を認めたり午前二時就褥○ ▲▼■

十七日(木曜日)午前八時起褥、今日は終日或は勉強し或は運動せり夜は夜学教授及び勉強をなせり午前一時就褥

十八日(金曜日)午前八時起褥、今日は終日或は勉強し或は運動し夜は夜学教授且つ勉強せり午前一時就褥、

十九日(土曜日)午前八時起褥、今日は来客ありて勉強するを得ざりし夜は日課通りをなせし十二時就褥○

廿日(日曜日)午前八時起褥、朝祷、説教、日曜学校母の療治を終へ午後は羅漢に行き夜は演説会を開き(1)宗教を信ぜざる可らず小橋正二(2)人は万物の靈なる説小橋実之助(3)七福神の説芳賀祐之助(4)耐忍の説小橋勝之助午前一時就褥○

廿一日(月曜日)午前九時起褥、午前中は良之助の后来の方針上に付き種々談じたり午後聖書研究、夜は夜学教授十二時就褥●

- 廿二日（火曜日）午前九時起褥、午前中午後中夜定りの職務をなしたり午後十二時就褥○
- 廿三日（水曜日）午前九時起褥、今日も午前、午後、及び夜定りの職務をなし午前一時就褥○今日は東京より立田重太郎氏の葉書到着せり○
- 廿四日（木曜日）午前八時起褥、午前及び午後の課業六分通りなして前田氏来られ談話せり夜の課業は休みたり今日は胃は食物の停滞し且つ少し分量過ぎ且つ通利なきによりて気分悪しく午後十時就褥す、○ ▼—▲—▼—■○
- 廿五日（金曜日）午前八時起褥、午前及び午後夜の課業九分通りをなしたり余は未だ全く主に従ひ安心する能はず自今以後一層勉励すべきなり○▼—▲
- 廿六日（土曜日）午前七時起褥、午前中は政教新論を研究せし午後及び夜は歯痛にて休業せし天父が我に是の歯痛を与贈ひしは我をして食欲に克たしむる為めなり感謝すべし又今日は水守立節君より来月三日に開く衛生談話会の案内状を差越されたり○▼—▲—▼—■○
- 廿七日（日曜日）午前八時起褥、今日は歯痛にて終日或は睡眠し或は看見し或は談話し晩□に至りて歯痛も癒へたり夜は讚美稽古及び西国立志篇を読み十二時就褥、○今日は基督教新聞を見大に裨益を得たり○
- 廿八日（月曜日）午前八時起褥、今日は午前中勉強せり午後前田英哲氏来られ母の病気を診察し次ぎに小西鷹治の病を尋ね次に佐山長太郎氏の病を問ひ帰宅前田氏と后来を談じ夜は三木善五郎氏小橋春岱氏への書翰を認め且つ聖書講義且つ母の看病午前三時就褥、
- 廿九日（火曜日）午前九時起褥、今日は午前中母の看病をなし午後は睡眠して夜母の看病をなすの準備をなし晩より夜へかけて少々勉強せし夜午前四時頃迄看病をなし又夜后来の方針上に就き種々談じたり然れとも是れ皆己れの考へ工夫に出でし決して主の聖旨に協はざる事なり慎しむ可し午前四時就褥○
- 卅日（水曜日）今日は昨夜母の看病にて午前九時起褥、其より午後へかけて勉強し四時頃より濱市村三木へ出掛け登記所行き事に付き彼是れ談話したり（三木善五郎氏の神経病は日に増し重くなる有様なり今日の様子では軽き発狂なり真にあわれ至極にこそ財産は如何に多く有りと雖ども近年に及びて財の思ひ煩ひより斯の如き病を發して未来永遠の墮落を得るは憐む可きの至りなり是の人の為めに神に祈る可きなり）就褥前聖書を読み十二時就褥○
- 卅一日（木曜日）午前五時起褥、喫飯后加里屋に行き登記を請求し午後二時に済み喫飯后大川清太郎（医）田渕淳蔵（医）神吉於梅（裁縫の教師）の三君を訪ね其れより人力車に乗り商通り峠に至り其より歩いて家に帰り喫飯夜は新聞閲読十二時就褥、今日途中余の思想に浮び后来専ら心掛し可き事は次ぎの如し（第一）専ら神学を研究する事（第二）客□言語挙動を修むる事（第三）弁舌文章を修むる事（第四）家族の事に対しての言語挙動を改むる事（第五）何事をも主の聖旨に従順なる事（第六）压制驕傲の心を生ず可らず（第七）明治廿三年は基督教証明の年なり（第八）明日より一層勉む可し
- 六月一日（金曜日）午前九時起褥、今日は昨日の疲れにて半分の勉強をなしたり午後十二時就褥、○今日林歌姉より書翰着せり○
- 二日（土曜日）午前八時起褥、今日は自然神学を読み明日の演説の準備をなし又三木三代吉、布施禎二の両君への葉書、林歌、松原茂両愛姉への書翰を認め夜は聖書講義をなし十二時就褥、
- 三日（日曜日）午前七時起褥、母の葉を携へ其の他要用を済まして八時頃より下土井村興福庵に行き衛生談話会に臨み（1）神の存在を論ず（2）（2）神は愛である（3）愛の説を述べて其の他会する人々皆な説を述べられたり今日会せし者十七人相議して共成学会を設け衛生、教育、勸業、法律、宗教を研究する為め毎月相会する事となせり其の幹事に水守立節氏と小橋勝之助の兩人撰ばれたり今日下土井村の人の傍聴に來りしもの十五六人ありし午後五時閉会帰宅后前田氏と教理を談じ十時就褥、○今日は赤穂郡内種蒔の第一着の日なり○
- 四日（月曜日）午前八時起褥、午前中定規の勉強をなし午後は昨日の勞れにて睡眠し夜は夜学教授せり十

## 二時就褥○

- 五日（火曜日）午前八時起褥、午前中定規の勉学をなし午後は母の看病及び勉学をなし夜は舎弟夜学教授をなし十二時褥に就く○今日母の病気は少し悪しくありし○又小橋平四郎氏への書翰を認めたり○
- 六日（水曜日）午前八時起褥、午前中は勉学午後は午睡し且つ来客応接母看病夜は夜学教授且小橋平四郎氏への書翰を認む今日前田英哲氏来られたり○今日片桐市之助神戸ヨリ来り其連れ来りたる一人は人を惑わすくせ物なるを看破せり世間には斯る衆に惑わされて益なきに金を費やし財を空にするもの多し嘆かはしき事にこそ○
- 七日（木曜日）午前八時起褥、午前中は勉学午後は午睡及び水守達也君と道の談話をなし又夜は夜学教授をなしたり十二時就褥
- 八日（金曜日）午前九時起褥、昨夜来母の看病をなし今日終日母の看病にかゝり果てたり夜は教授をなし十二時褥に就く○今日は三木善五郎氏と久安丸新七殿とへの書翰を認めたり○
- 九日（土曜日）午前八時起褥、午前中は畑を耕やし身体の運動をなし午後は疲れて睡眠し夜は母の看病十二時就褥○今日は小橋平四郎氏よりの書翰着せり又東京北新堀町七番地濱口仁兵衛殿久安丸新七殿にとの二通の書翰を認めたり○
- 十日（日曜日）午前八時起褥、午前中ハ朝禱、及び説教をなし午後は頭痛の爲め午睡したり今日高田中野村尾氏の内闈来られ種々談話し其の一男一女基督教を学び度由話されたり夜は信仰上の談話をなし十二時就褥
- 十一日（月曜日）午前八時起褥、朝聖書を読み其の他午前中は家事をなし喫飯午後は睡眠し又基督教新聞を読み又母の看病をなし又夜は母及び良之助と宗教上の事に付き彼是れ云ひ合ひ（是れ余の本意に非ず天父の聖旨に背きたり）たり非常に心に不快を感ぜし今日は神学の研究と教授とを休みたり十二時就褥○
- 十二日（火曜日）午前八時起褥、朝聖書を読み其の他午前中ハ家事をなし午後も亦家事をなし夜は市町村制を研究し十二時就褥○
- 十三日（水曜日）午前八時起褥、朝聖書等を読み其の他午前中ハ家事をなし午後は午睡し夜は聖書講義夜は母の看病、今夜は徹夜すべきなり、●○
- 十四日（木曜日）午前十時起褥、昨夜母の看病にて徹夜せし午前中は僅かに聖書を研究し午後は午睡し夜は聖書研究及び聖書講義をなせし十二時就褥○
- 十五日（金曜日）午前八時起褥、今日は朝より晩に至る迄、定規の勉学をなし夕更に水守達也氏の来訪有りて宗教を談ず夜は聖書研究及び好一発熱して之れが看病をなしたり今夕も徹夜して介抱すべきなり○
- 十六日（土曜日）午前九時起褥、今日は朝より晩に至る迄好一の看病及び勉学をなせし夜も亦然り今夕も亦徹夜して看病すべきなり○
- 十七日（日曜日）午前九時起褥、今日は午前より午後へかけて水守達也、藤塚壬三、村尾得之、村尾澄、村尾よし女の五氏に道を談ぜし午後より夜にかけて病人の看病をなせし夜は病人の爲め祈祷会を開けり十二時褥に就く○
- 是の百日間になせし事次の如し（1）看病をなせし事（2）神学を学びし事（3）舎弟を教育せし事（4）赤穂郡内に福音の種を蒔きし事（5）文通伝道をなせし事（6）家事認督をなせし事